

2023 年春学期語学留学/ウーロンゴン大学 帰国生アンケート

※注意※ ここで紹介されているアンケート回答は**全て個人の主観によるもの**であり、あくまで『参考情報』としてみなさんに開示しています。**正しい情報とは限りません**ので、その点について了承した上で留学準備に活用してください。

1. 授業について

授業の形態や進め方はどんなものでしたか。

15,6 人で1クラス。ES4 というクラスではスピーキング、リスニングがメインでした。オーストラリアの文化や動物について習いました。M2 というクラスではライティングリーディングメインでした。主にエッセーの書き方を習ったりたくさん問題を解いたりしました。

朝 8 時半から昼の 12 時半までの 4 時間授業。間に 30 分休憩を挟む。前半か後半のどちらかはゲームなどをすることもあった。

主に英文法を学ぶリーディング、ライティングの時間と話し合ったりプレゼンテーションなどを行うスピーキングの時間があった。

グループやペアが多く、ゲームや発表などでコミュニケーションがととても多いです。

前期はグループディスカッションが多かったが、クラスには日本人しかおらず、日本語を話す人が多かった。内容は歌詞の穴埋めや学内の絵画を見つけるなど簡単なものが多かった。後期はアカデミックなクラスを志望したため、アカデミックスキルを身につけるためのライティングとリーディングを週に 3 日、その他 2 日はリスニングとスピーキングをした。プリントが配られたり、パソコンでエッセイを入力したりした。

月曜日から金曜日まで毎日 8 時半から 12 時半までの 4 時間、間に休憩 30 分あり。オーストラリアの音楽や地形などについて学んだり、英語の単語や表現について学んだ。全員が理解してから進んでいく為、授業はわかりやすかった。

授業は 8:30~12:30 の間で前半と後半があり、前半はオーストラリアについての基礎知識や動画を見て学ぶことが多く、後半はグループワークやペアワークなどスピーキングが多かったです。

前半は先生の話聞いて考えたりクイズをしたりするようなクラスでした。後半では自分の意見を発表することが求められるような授業でした。

2 セメスターのうち 1 セメスターは speaking に特化し、もう一つは essay の書き方など、語彙を上げるような授業でした。もちろん speaking もありました。文を読み、解説、解釈の発表など、国語の授業の英語版のようなものでした。

週 5 回で土日休み、8:30~12:30 まで授業が毎週ありました。大体 10:30~11:00 までの休憩がありました。普通の授業もあれば、小旅行のような動物園に行ったり、サーフィンをするなどの授業の日もありました。授業は、普通の授業だけでなくアクティビティのような英語を使うことなどもし、楽しく授業を受けることができました。

クラス人数、日本人と留学生比率、留学生の出身国などについて教えてください。

ES4 は全員が日本人でした。M2 は半分が日本人でそれ以外は中国人、タイ人、レバノン人がいました。

全体で 12、3 人。日本人 7 人、中国人 3 人、サウジアラビア人 2 人。

1 クラス約 15 人程度であり、8 割、9 割が日本人でありほかの国の留学生は中国、サウジアラビア、マレーシアなどの出身であった。

前期 サウジアラビア 2、中国 3、日本人 7 後期 日本人のみ

1 クラスは 15 人ほどで、どのクラスも 8~10 割が日本人。その他は中国人、レバノン人、タイ人。

上のクラスから下のクラスまで 5 クラスあり、一クラス 15 人程度。3 か月の期間中に一度クラス替えあり。上の 5、4 クラスはほとんど日本人。他の留学生がいてもひとりかふたり程。それ以外のクラスには留学生が多数。半分以上は留学生。留学生は中国人、タイ人、サウジアラビア人。

クラス人数は 13 人ほどでした。日本人だけのクラスもありました。留学生の出身地は中国、タイ、サウジアラビアが主でした。

前半も後半も全員日本人でした。他のクラスにはタイ人やサウジアラビア人、中国人などがいました。

前半授業では日本人だけの授業で、後半はタイ、中国、レバノン、日本と多国籍な教室になっていましたが、やはり日本人の率が高かったです。

クラス替えが一回あり、大体 13~15 人くらいと少人数のクラスでした。1 回目のクラスは、日本人だけでなく、中国人とサウジアラビア人も混ざっているクラスだったのですが、2 回目のクラスは、日本人だけのクラスでした。日本人と中国人が多い印象でした。そのほかには、サウジアラビアや、タイ、韓国人などがいました。

クラスの雰囲気はどんなものでしたか。

メンバーによると思います。前半の全員日本人だったクラスでは日本人とは英語で話したくないという学生がおりだんだん周りも流されて最後の方は全然英語を使わないクラスになっていました。それが嫌で後半は M2 にクラス変更したのですがそこでは多国籍の学生が集まったクラスだったので必然と英語を話す機会がありとても質の高い授業を受けれたと思います。

日本の授業よりディスカッションやディベートが多い。ミニゲームもよく行った。

先生が学生に自主的に発表させたり、グループでディスカッションする機会が多く自主性を尊重する授業であった。また学生同士で教えあう時間もあつたりと自分の考えを発表する機会が多かったと感じる。

座学だけの授業の日がありません。真ん中に全員集まってコミュニケーションをすることが多いです。後期で座学中心の先生がいましたが静かでした。

中国人と日本人は授業中でも母国語を話す人が多く、やる気を感じられなかった。他の国の学生は自ら発言している人が多く、積極的だった。

日本の大学では英語の授業でも日本語で話してしまうことがあるが、あちらの大学ではすべて英語で会話をしていた。休み時間にも日本人でも英語で会話をしている人も見かけた。分からないことがあったら先生にすぐ聞けるような雰囲気だった。また、先生も親しみやすい。

クラスの雰囲気はとにかくスピーキングが多いので、みんなで話したり楽しい感じはずっと静かに受けるのは少なかったです。

先生が話すだけではなく、ペアワーク、グループワークで自分の意見を言ったり、クイズやスポーツをしたり、サーフィンや遠足に行くなど楽しみながら学べるものでした。

日本人が教室に多くいたのでしょっちゅう日本語が聞こえました。それに対して楽しそうにしている学生もいれば逆にそれを嫌がる学生もいました。日本でもできるような授業が多くそれに対しては改善をしていきたいと先生と相談もしました。後半授業ではそれは改善されましたが、他のクラスではひどかったようです。

一度クラス分けがあったのですが、1 回目のクラスは、日本人の他にも外国人がいたので、そこで会話するための共通言語は、英語だったので、授業以外でも英語を話す機会はすごく多かったイメージです。また、2 回目のクラスは、全員が日本人だったので、授業中でもたまたま日本語が飛び交ったりして、日本でネイティブの先生に教えてもらうのと、あまり変わりませんでした。

授業の中で取り上げられたトピックで印象に残っているものは何ですか。

オーストラリアの動物について

日本のレストランについてのディベート。

インターネット上で公開されているオーストラリアのニュース番組「btn」を閲覧しその状況や情報、対策などについて先生も交えて話し合う授業が印象的であった。

オーストラリアについて、文化や歴史、動物など

オーストラリアの動物について

オーストラリアの英語の略し方についてが印象に残っている。breakfast を brekky, dinner を din-dins、など聞いたことのない英語の略し方をするのが面白かった。授業だけでなく、家でもよく聞いていたので馴染みもあり、すぐに覚えられた。

印象に残っているのはオーストラリアの動物や自然について学ぶことです。

できるだけ他の国の方と英語を使って話すようにしてました。普段聞けないことや気になることを積極的に聞くことを心がけてました。

自分の好きなものについてプレゼンテーションをする授業がありました。みんなそれぞれが自分の好きなものを発表しました。ダンスやスポーツについてや、音楽、アーティスト、ペット、趣味、場所などさまざまなプレゼンテーションがありました。

ある中国の先生が『日本はトイレが世界一綺麗な国』とおっしゃっていました。日本に帰ってきたあと、それを痛感しました。

授業の一環として小旅行のようなものがあり、その機会にサーフィン体験し、それまでにサーフィンについての授業をしたことが1番印象に残っています。

授業を受けるにあたって工夫していたこと、努力していたことはなんですか。

初めて聞いた単語や知らなかった知識はすぐにメモして友達に聞いたり、先生に質問に行くようにしていました。

先生の言っている事がわからなくても、日本人の友達には極力聞かず自分で考えて解決していた

わからない単語が出てきたときに先生に尋ねたり、自分で調べたりし理解を早めようとしていた。

自分から積極的に話に行く、わからないことがあったらそのままにしない

分からないことは質問したこと。

学校の授業の振り返りはしていた。暗記して小テストがあるわけではないが、振り返りをしていた。留学の最後の方にパワーポイントを使ってプレゼンがあったので、それはいろいろと工夫をしながら発表した。

授業で出る課題だけでなく予習復習をきちんとして授業についていけるように努力していました。

授業内容に関してしていたことは特になかったです。その代わりに、単語の意味を調べるときは日本語を使うのではなく英語で調べたり、画像で調べたりしていました。私にとって、最も重要なことは授業内容ではなく、相手の言っていることを理解することでした。なので授業前、放課後には speaking, listening の練習をしていました。

授業が毎日昼までで終わっていたので、そのあとの時間図書館に行って、その日の授業の内容を復習したり、なるべく外国人と話す機会を増やしたいと思い、サークルやアクティビティなどに参加し、外国人と話していました。

2. 滞在先・自由時間の過ごし方について

ルームメイトはいましたか。	ルームメイトはどこの人でしたか。	通学手段	通学時間
0人		バス	15-30分
0人		バス	0-15分
0人		バス	15-30分
1人	タイ 一ヶ月半のみ	電車	45-60分
1人	ベトナム	バス	30-45分
0人		バス	30-45分
0人		バス	0-15分
0人		バス	30-45分
0人		バス	15-30分
0人		バス	30-45分

部屋に用意してあったものは何ですか。	自分で用意したものは何ですか。
机、ベッド、棚、ハンガー、ハンガーラック	シャンプーなど
カーペット、机、タンス、ベッド、ストーブ	衣類、タオル、洗剤やスキンケア用品(予備も)、歯ブラシ、シャンプー、リートメント、学校用の靴、外出用の靴、ハンガー、ヘアアイロン、スリッパ、靴(スニーカーやブーツなど種類が違うもの)、日焼け止め、コンタクト、洗浄液、爪切り、薬、エアタグ、パソコン、iPhone 充電器、変換プラグ、モ

	バイルバッテリー
クローゼット、ベッド、机、いす、引き出し	洗面用具、筆記用具、タオル、衣類、医薬品、変換機、洗濯ネット、ハンガーなど
ベッド、ハンガーラック、机と椅子、タンス	しおりに書いてあったもののみ
ベッド、ドレッサー、棚、椅子、タオル	ドライヤー、変圧器、洗面具、シャンプー、リンス、ボディーソープ
ベッド、勉強の為のテーブル、タンス、ハンガー、ドライヤー、コテ、ボディータオルなど生活、勉強に必要なものはそろっていた。他にも、シャンプーやコンディショナー、ボディーソープなどの必需品もそろえてくれていた。	洋服、歯ブラシ、歯磨き粉など。また、シャンプーやコンディショナーが無くなったなら自ら購入していた。
ベッド、机、クローゼット、イス、テレビ	服、ボディーソープ、シャンプーなど普段生活に必要なもの
机、スタンドライト、いす、ベッド、たんす、クローゼット、ハンガー、バスタオル	ティッシュ、衛生用品、服
机、ベッド、棚、タオルでした。	入浴時に使う物、スキンケア、パジャマ、下着など
ベッド、ハンガー、時計、洗濯かご、収納ボックス、タオル	

ホームステイ生活をする上で、日本と違って戸感ったこと、驚いたこと。

いただきます、ごちそうさまがない。

シャワーが5分以内、同じ料理が3日以上出る。洗濯は週に一回

土足、箸がない、お風呂に浸かれない

家の中が土足だったこと、シャワー時間が10分と制限があったこと。

ご飯の時、いただきますを言わないこと、また全員揃わなくてもご飯を食べ始めること。オーストラリアの人は夜寝るのが早く、朝起きるのが早かった。

そこまで戸感ったことは無いのですが、オーストラリアはゴキブリが多い国で、ゴキブリが数日間沢山でたこと

料理をナイフとフォーク、もしくは手で食べることです。お箸を使える人は少なく、お米もフォークで食べました。

トイレがたまに流れていない、寝るのが早い、食べ物を捨てるのが多い

シャワー時間がとても短いのと、水が大切なので、長くシャワーを使うことはなかったこと。

ホームステイを快適に過ごすためのアドバイスをお願いします。

ホストファミリーと話す機会位があれば話しかける、質問する。家のルールは初めに聞いておいて守る。帰宅時間が遅くなる時や急な予定変更、些細なことでも連絡して知らせておく。食事の準備や後片付けは積極的に手伝う。

ホストファミリーと積極的に会話をする。自分のことは自分でこなす。(家事など)

部屋に籠りすぎない

室内用のスリッパを持参すること。

嫌いな食べ物などがあった場合、無理して食べるのではなく、ちゃんと伝えることが大切だと感じた。

基本的にホストファミリーの言う事をしっかり聞いて、自分で出来ることはした方がいいと思います。

ホストファミリーと積極的に会話をすることが大切です。家のルールもちろんですが、その日の出来事を話すことも英語力の向上につながります。

毎朝、毎晩いつでも挨拶をする。話しかけに行く。雰囲気良くなる。ファミリーのルーティーンなどを事前に聞いておく

1人の時間も大切だけど、なるべく家族との時間も大切にできるようにすれば、快適に過ごすことができると思います。

パソコンは 持参しましたか。	携帯電話	インターネットは部屋から 接続可能でしたか。	その際に費用は かかりましたか。
はい	日本の携帯をそのまま持参	LAN ケーブルで可能	いいえ
はい	留学先で SIM カードを購入	ワイヤレスで可能	いいえ
はい	日本から SIM カードを持参	LAN ケーブルで可能	いいえ
はい	留学先で SIM カードを購入	不明	いいえ
はい	日本から SIM カードを持参	ワイヤレスで可能	いいえ
はい	日本から SIM カードを持参	ワイヤレスで可能	いいえ
はい	留学先で SIM カードを購入	LAN ケーブルで可能	いいえ
はい	日本から SIM カードを持参	ワイヤレスで可能	いいえ
はい	留学先で SIM カードを購入	不明	いいえ
はい	日本の携帯をそのまま持参	ワイヤレスで可能	いいえ

大学主催のプログラム/イベント/ボランティア /サークルなど。	学内/学校近辺でよく利用した施設やお店など
フリースクール、フリーランチ、Japanese exchange class	図書館、テスト期間中は24h 空いていました
クラブ活動や、サークル。	ウーロンゴンセントラルモール
男女混合のバレーボールサークルに週 2 回参加した。周りが全員ネイティブの人であったことから英語習得のできるいい経験になった。	カフェ(校内)を頻繁に使用した。
大学主催の日本語教室のようなものに参加しました。	
クッキングクラス、英語と日本語のエクステンジクラブ、バドミントンクラブ、バレーボールクラブ、その他学内でのイベント	学内の図書館、ショッピングセンター
元々学校で月に一回遠足見たいな行事があった。私たちはサーフィンしたり、動物園や観光地を観光したりと様々な体験ができた。また、毎週火曜日、または水曜日にスポーツデイがあり留学生たちと交流しながらスポーツができた。他にもサークルにも参加でき、私は日本語サークルで現地の大学生と交流もできた。	授業が 12 時半までだったのでそこから同じ大学の子たちと大学の学食でお昼ご飯を食べた。時間があれば、近くのウーロンゴンセントラルに買い物をしに行っていた。
自由時間は比較的多くて、毎週水曜と木曜はスポーツデイと言ってスポーツをしてました。	大学内のアジアレストランやタイのレストランをよく使っていました。
毎週金曜日の放課後に現地の学生と交流できるクラブに参加していました。クッキングクラブにも参加しました。参加したかったボランティアは大雨で中止になってしまいましたが、現地の大学で日本語を学んでいる学生と日本語と英語で交流するボランティアにも参加しました。	授業と授業の間の休憩時間には友達とカフェテリアに行って紅茶を飲んでスイーツを食べたりしていました。放課後はひとりの時は図書館で勉強したり、友達と卓球やビリヤードをしていました。学校近くのショッピングセンターに行ったりビーチにもたくさん行きました。
ユニの図書館で勉強、家の周りで散歩、アンザックデー、大学主催のクラブ	図書館、ビーチ、ショッピングセンター、カフェ

3. 留学前準備について

留学前に取り組んだ準備
自己紹介文を作っておく
英単語の見直し、留学時に役立つ文法やイディオムの検索
日常英会話の YouTube を視聴。英単語の暗記(特に日常で活用できるようなイディオムなどを暗記)
オンライン英会話を少し。
単語の勉強。他にも現地で使えるような表現やイディオムなどを少し覚えていった。
留学前は日用品の用意、またホームステイ先で使える英語を少し見てました。
留学中に困らないように英単語を勉強していました。留学後に TOEIC を受けれるように出発前にも TOEIC を受けて、どれだけ英語力がのびたのかが可視化できるようにしました。
英作文の習慣化、AI にむかってひたすら speaking 練習

留学前にしておけばよかったと思う準備
滞在先の観光スポット、カフェなどを調べておく
日本が好きなホストファミリーだったので日本の文化や地理についての勉強。オーストラリアの基本的な地理について。
発音の練習をよりするべきであった。(伝えたいことが伝えにくかったので)
単語
英会話をもっと、単語の勉強
もう少し単語や基本の文法をしっかりと覚えて会話に使えたらよかったと感じた。
現地の気温や気候をしっかりと調べておけばよかったと思いました。初めて行く国なので、全然わからず持って行く服に困りました。
文法をある程度固める、listening 練習(聞き取れないと会話さえできない)

日本から持って行って役に立ったもの、または喜ばれたもの
シチュー
日本のスナック菓子や、グミなどのお菓子。洗顔料、スリッパ、現金、薬、爪切り、体温計
手土産で持って行った緑茶のお茶パックは喜ばれた。
のど飴
煎餅、うどんとそばのカップ麺
オーストラリアは日差しが強いのでサングラス、帽子は持って行っておいてよかったと感じた。また、除菌シートは現地のものは変なおいがしたので日本のものを持っておくとよいと感じる。
変圧器、乾燥するのでボディークリームなど。
ホストファミリーのお土産に抹茶のキットカットと紅茶と私が住んでいる市のポストカードを持って行きました。ポストカードには市の有名な場所が描かれており、どんな場所に住んでいるのか説明するのに役立ちました。ウェットティッシュとポケットティッシュは出先で手を拭いたりテーブルを拭くのにとっても便利でした。
ワセリン(乾燥知らずになった)、柿ピー(マザー大喜び)
着物生地のもの、箸など日本らしいもの、味噌汁

日本から持っていく必要のなかったもの	日本から持参すればよかったと思ったもの
ドライヤー	冬服
タオル、シャンプー、無駄な衣服	ポカリ、掃除用のコロコロ
特になし(すべて活用した)	より多くの衣類(特に下着類)
マスク	半袖、現金をもっと持っておけばよかった
単語帳など三冊ほど持って行ったが、そんなに必要がなかった。また、ペンやルーズリーフなどはそこまで沢山持っていなくていいと感じた。	メイク落としと洗顔はあまりいいものがないので持って行った方がよいと感じた。髪の毛が傷みやすいのでシャンプーやコンディショナーなど持って行ってもよいと感じた。
ボディソープやシャンプーなど日用品は現地で購入できるので予備はそこまで持っていく必要はないと思います。	半袖の服。
基本クレジットカードを使います。現金は5万円ほど持って行きました。	クレカは上限30万円。現金は5万円ほど。
	粘着クリーナーはオーストラリアでは主流ではないため売っていませんでした。ペットがいるホームステイ先だったので持っていけばよかったと思いました。日本食が恋しくなるとは思っていなかったのも何も持っていきましたが、インスタントの麺やごはん、味噌汁など持って行けばよかったと思いました。どちらも後日日本から親に送ってもらいました。
タオル類、シャンプー、リンス、ボディソープ	大きめのバック(帰国する時にお土産やあふれた荷物を入れるのに使えます)

4. 留学費用について

お金をどのように準備しましたか。	日本円でいくらぐらい準備しましたか。
現金、クレジットカード	10万円でしたが多すぎたので5万円です十分だと思います。
現金とクレジットカード、デビットカードを用意した	・デビットカード 月10万程度 両親からの振り込み ・クレジットカード 上限なし AMEXカードとVISA ・現金 3万から5万ほど
クレジットカード	クレジットカード約20万、現金4~5万
クレジットカードと現金(200ドルくらい)	クレジットカード上限20万、現金200ドルと30000円
クレジットカード、デビットカード、現金	クレジット40万円
クレジットカードはどこでも使えるので、クレジットカードで払っていた。友達と割り勘をすることもあるので、現金は少し持っておくか、向こうでおろすといふと感じる。	クレジットカードは50万円ほどのもの、他にもキャッシュカードがないとお金が下せないで持っていくとよい。クレジットカードはもしものことも考えて三枚ほど持って行った。現金は一万円換金して持って行った。
基本クレジットカードを使います。現金は5万円ほど持って行きました。	クレカは上限30万円。現金は5万円ほど。
クレジットカード2枚、キャッシュカード1枚、現金5万円分	現金 日本円2万5千円、オーストラリアドル2万5千円分、クレジットカード上限20万を2枚

現地で支払った住居費と食費を教えてください。

食費は大体月に3万から5万程度

食費約7~8万円(大学での昼食代3か月分)

住居費は分かりませんが、食費は昼食に5~15ドルくらいです。

住居費はホームステイだったので留学前に留学費用として現地では払っていない。食費はお昼ご飯や遊びに行った時の夜ご飯などで五万円ほど。
食費は学校で食べる昼ご飯や休日、放課後出かけた時の分が必要になります。クレカは月 5～12 万ほど。
住居費は支払っていません。食費は平日のお昼用にホストマザーがサンドウィッチ用のパンと具材、お菓子などを買ってくれていたの、出かけたときや好きなものを食べる時など以外は出さなかったです。ホストマザーが不在の時もごはん代を渡してくれていました。学校で買う場合だと一食 \$ 3～\$ 15 ほどかかると思います。

テキスト代と通学費はそれぞれいくらぐらいかかりましたか。
テキスト代なし。交通費3万円
通学費 3万ほど
0円、テキスト代なし、通学はフリーパスを使用
通学費、片道4ドル、週40ドルほど
テキストは無し。通学は月 5000 円ほど。
テキスト代は特になかった。学校からその日に使うものをプリントで配られていた。通学日は一日に 700 円ほど。
通学費は月 5000 円ほど
テキスト代はありませんでした。通学費は往復で \$ 8 ほどでした。通学費を減らすために歩いて帰ることもありました。

その他旅行や買い物など個人的費用は何にいくらぐらいかかりましたか。
買い物や週末のお出かけで、15万程
お土産代、衣類の購入、日用品(洗剤、シャンプー、ボディーソープなど)、レストラン、カフェなどに約20万円
シドニーに行って、昼食、夕食、観光で100ドルくらいはかかります。
月 10 万円ほど。
買い物やご飯などで月に 13 万円ほど使っていた。
観光費、食費、交通費、私費で月 5～12 万ほどです。
週末はほとんど出かけていたので、たくさん買い物もしました。私は無駄遣いをよくするので、月 10 万ほど使っていました。

5. 学習面について

語学力・コミュニケーション能力の自己分析
自分が一番伸びたと思うスキルは会話の流暢さです。今までは正確に伝えようと頭の中で文を作ってから話していましたが今では日本語と同じような感覚で自然と英語が出てくるようになりました。またネイティブの人がよく使う単語を覚えて会話がより自然になるように頑張りました。
積極的に現地の知り合いに話かけられるようになった。
ネイティブの人がいるコミュニティに積極的に参加することによりコミュニケーション能力は飛躍的に向上したとを感じる。またリスニング力に関しても向上したとを感じる。
語学力は最初に比べるとだいぶ上がりました。自分でも感じますし、ホストファミリーからも言っていました。コミュニケーション能力も上がったと思います。日本に帰って来てから以前感じていた英語で話すときの緊張感は無くなりました。
リスニング力が向上した。
帰ってきてから Speaking と Listening が身についた。特に Listening 力は身についた。また、英語を話すことは怖くなくなった。ただ、Writing は授業であまりなかったので、変化していないと感じる。
留学前よりは確実にコミュニケーション能力は上がったと思います。

着いてすぐは全く会話ができませんでしたが、徐々に会話ができるようになり、自分の思っていることもはっきり伝えられるようになりました。ディベートなどで瞬時に答えないといけない場面でも簡単な英語ではありますが、自分の意見を言えるようになりました。

留学前よりは、はるかに speaking, listening, reading のスキルは上がりました。文法も。ですが、まだ listening は未熟そのものなので、イギリス英語を軸により練習を重ねていきます。

1ヶ月目までは、話したいけど単語が出てこなかったり、スムーズに伝えられなかったりしていたのですが、だんだんと単語がすぐ出るようになってきたり、よく使う構文を頭に入れていけばだいぶ話せるようになりました。そして少しでも話せるようになればもっと外国人と話したいと思い、コミュニケーション能力も上がったと感じています

留学前の目標とその達成度

留学前は現地の人たちとの会話に困らない語彙をつけて帰ってくる事だった。実際にはスラスラでは無いが、ある程度の語彙力やリスニング力がついたらと考える。

留学前の今期留学の目標は自身の英語力(特にリスニング、スピーキング)の向上であった。リスニングに関してはこの3ヶ月の語学留学でかなり向上したと感ずることができた。スピーキングに関しては話す機会は多かったがまだ自分の言いたいことを伝えきれない部分も多々あったので今後のより一層の向上に向けて帰国後も実践的な練習を行なっていきたいと考えている。

目標は、日常会話で困ることなく話す。専門的な言葉はあまり分かりませんが、日常会話なら、ほぼ詰まることなく話せたので達成できたと思います。

物怖じせず、誰にでも話しかけられるようになり、帰国後 TOEIC で 700 点を取ること。TOEIC の結果はまだ出ていない。また、まだ海外の人に話しかけるには勇気がいるが、留学前よりは自信が持てるようになったと感じる。

英語力がしっかりつくことを目標にしていたので、そこはある程度達成できたと感じる。

日常会話をスムーズにやり取りすることが目標である程度出来るようになったと思います。

私は英語力はもちろんですが、消極的な自分を変えたくて留学に参加しました。なんでも人任せにする自分がとても嫌でした。その点は留学を通して変わったと思います。

問題なく会話をする事、人とたくさん関わることでした。達成度は 40 です。現地に行くと、なぜか自信がなくなります。そして、話しかけに意欲、勇気が削がれます。最後はそれを克服しようと行動にうつしました。なので 40 です。

英語を自信を持って話せるようになりたいと思い留学に行きました。自分が思っているより、英語が上達し、外国人と恥ずかしがらずに楽しく会話できるようになりました。

留学を通しての成長ポイント

勇気を出して発言してみるということです。今まではただ授業を聞くだけで意見などはあまり述べる方ではなかったけど留学を通してもっと自分の考えを理解してほしいと思うようになりいろんな場面で発言をするようになりました。

コミュニケーション力が上がったと思う。

留学を通して私は自身の英語力はもちろん、自立性と自分の意見をより主張できるようになったと感じている。

考え方が広がり、何事にも挑戦する力、諦めない力が身についた。

Listening と Speaking はついたと感じる。

行動力がとにか付いたと思います。またコミュニケーション能力。

英語力はもちろんですが、人任せにしなくなった点で成長したと思います。それは授業の発表の場面でもそうですが、留学前は街で困っている人がいても誰かが声をかけるだろうとスルーすることが多々ありましたが、留学から帰ってきて、困っている人がいたら自分から声をかけて助けられるようになりました。

失敗を怖がらない。むしろ成長点。これを知ることができました。

自分から進んで行動する力が身についたと思います。今までは誰かに合わせて行動していたのですが、あっちでは、自分から行動しないと外国人と関

わる機会を作れなかったので、英語力を向上させるために自分から行動することが多くなりました。

留学前/留学中/留学後の語学学習に対するモチベーションの変化

留学前は全てが初めてのことで尽くしたので日々有意義で楽しい生活にできたらいいなと思っていました。留学中にもっと友達と英語で深い話をしたいという思いで毎日の勉強を頑張りました。今は英語力が落ちないうちに TOEIC の勉強をして高得点を取ることがモチベーションになっています。

できるだけ英語を使ったり、英語に関わろうとするモチベーションが上がった。

モチベーションの変化については留学中は学べる事が多く留学後に自分がしたいことを新たに発見することができたので留学後のモチベーションの持続に繋がったと感じる。

留学前は英語に対して勉強のやる気が低かったです。留学中はとにかく話そうとしました。留学後は自分でできること、TOEIC などの勉強をしています。

留学中が一番モチベーションが高かった。留学後ももっと英語を勉強したいと思うようになり、今まで考えていなかったが、ワーキングホリデーに行きたいと考えるようになった。

毎日英語で家に帰っても英語ということが心配だった。/最初はオーストラリアの英語の癖が強いであまり理解できるまで時間がかかったが、だんだんと耳が慣れてきて聞こえ、理解できるようになってきた。それが段々と楽しいと感じるようになった。/外国人と英語で会話することに恐怖を感じなくなったので、さらに英語を伸ばせ今よりもすらすらと会話ができるようになると思う。

他の国の方とよく関わっていて、休日に一緒に出かけてりしていたのでもっと話すようになりたいと思いモチベーションは上がりました。

留学前は留学中に困らないように英単語の勉強をしていました。留学中は貴重な時間を無駄にしないように持って行った単語帳を見たり英語で日記を書いたりしていました。留学後は就職活動とともに TOEIC の勉強をしたり、オンラインの英会話を受けています。モチベーション自体に変化はなく、むしろ向上していると思います。

今持っているこのスキルを失いたくないです。留学前よりもモチベーションは上がっています。

英語を話すことを恥ずかしいと思っていましたが、留学を通して恥じずに話せるようになり、間違ってもいいと思えるようになったので、そこから学べる事が多くなりました。

留学中 100%力を振り絞った瞬間

一人旅行でウルルへ行った時は、飛行機の搭乗手続きからツアーの申し込み、トラブルへの対処を全て一人でこなさなければなりません。頼れる人がおらず日本語も通じない環境で一人行動をしなければならないというプレッシャーもありましたが無事に帰ってこられた時の達成感はとても大きかったです。

マザーやファザーの客人と会話をする時。学校の先生やホストファミリーの様にゆっくりな会話ではないから聞き取るのに苦労した。

私が留学で 100%の力を発揮できたことはスラングやオーストラリアの人の発音を覚えてネイティブを意識して会話をするようにしていたことです。

私は人の前で話すのが苦手なので、プレゼンテーション発表の時だと感じます。

旅行先で見つけた演劇のチケットが売り切れだったが、交渉し、手に入れたこと。

最後にあったプレゼンテーション。今まで勉強した英語を使いパワーポイント作成、発表。しっかりと力を発揮したため、先生からの評価もよかった。

プレゼンテーションやホストファミリーとの会話

外国人と交流できるクラブに参加した時に、3人のインド人と1人の中国人と5人で話す機会がありました。会話を聞き取るのに精一杯でしたが、日本でも人見知りであり人と話さない私にとってはその時が一番力を振り絞った瞬間でした。

プレゼンが2回あったことです

留学先大学の良かった点

自然豊かでのびのびと授業を受けることができたことです。遠足で動物園に行ったりサーフィンをしたり貴重な体験がたくさんできました。

留学生同士の交流の機会をたくさん作ってくれたので、オーストラリア人以外にもたくさんの知り合いができた。日本について学ぶサークルがあったので現地の人と関わる事が出来る機会が多かった。

留学先の大学で良かった点はイベントを多く行っており、留学生をはじめとした交流や、クラブ活動への積極的な声掛け、また日本語を学んでいる大
学在籍中の学生とも交流を図ることができたのは自分の中ですごくためになるイベントが多かったと感じる。

学生の意見を聞き取り入れてくれる。

日本語と英語のエクステンジクラブがあったこと。定期的に学内でイベントが行われていたこと。

先生たちがとても親しみやすかった。わからないことがあればすぐに質問できた。また、留学生とゲームで交流しながら授業を受けることができ楽し
かった。

大学内は日本と違ってとても広くて複合施設ばりの量の施設が沢山あってとても良かったです。

設備が整っていると思いました。バーや卓球やビリヤードができる場所、学生がリラックスするために寝るスペース、ジム、プールなどがありました。勉
強で溜まったストレスを発散できる場所がたくさんあるなと思いました。

広い、自然が多い、お互いフレンドリー

2週間に一回ほど留学生ほとんど全員が集まってする授業みたいなのがあり、交流する機会になり良かったです